

日付：2005 年 12 月 2 日

提出元：NTT 東日本

題名：遠端的近端漏話雑音、近端的遠端漏話雑音の評価方法について

1. はじめに

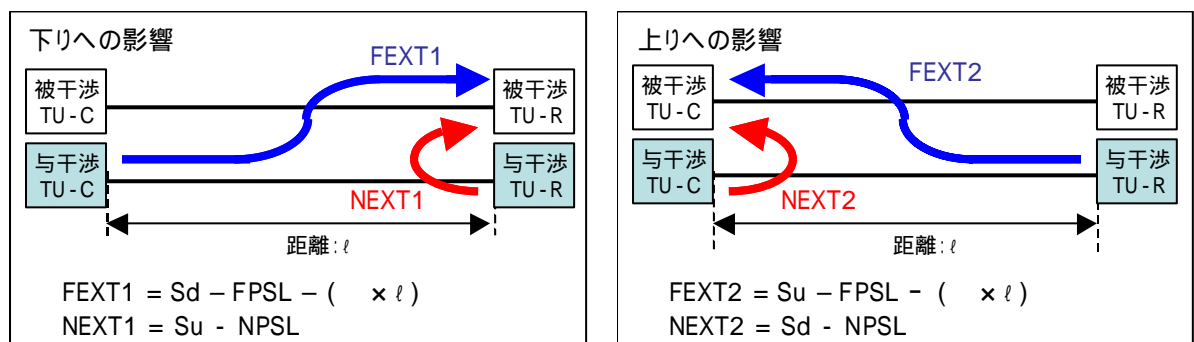
本寄書は、き線点等に設置する xDSL 方式から受ける漏話雑音の評価方法について提案するものである。

2. き線点等に設置する xDSL 方式から受ける漏話雑音

(1) 与干渉回線が同一収容局の場合の漏話雑音モデル

JJ100.01 第 3.0 版では、同一収容局とユーザ終端装置間のスペクトル管理方法が規定されている。換算線路長における、新たな方式の信号出力(下り Sd、上り Su)からの遠端漏話 FEXT、近端漏話 NEXT は、近端漏話減衰量 NPSL、遠端漏話減衰量 FPSL、および線路減衰量 を用いて下図の様に表現される。

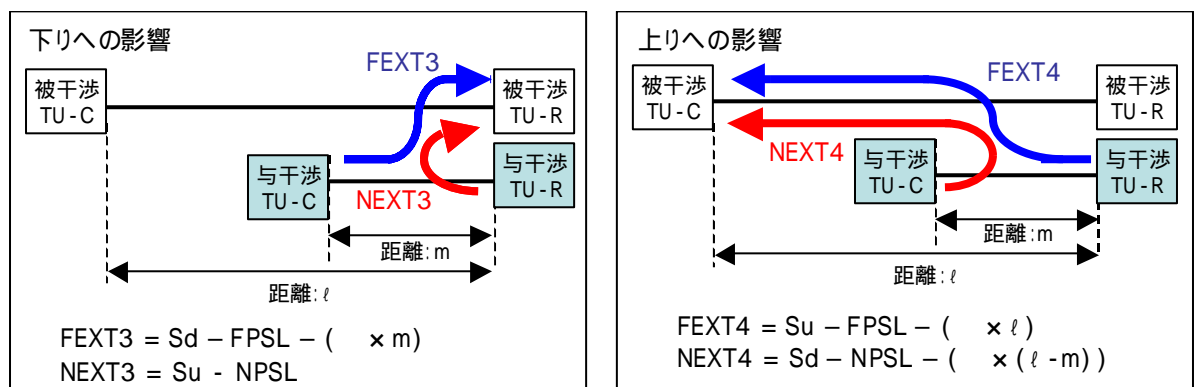
図 1 . JJ100.01 第 3 版における漏話雑音の評価イメージ



(2) 与干渉回線がき線点等の場合の漏話雑音モデル

き線点等に TU-C を設置する場合、与干渉 TU-C と被干渉 TU-R の距離が接近することによる近端的遠端漏話、与干渉 TU-C と被干渉 TU-C の距離が離れることによる遠端的近端漏話を考慮する必要があるが、JJ100.01 第 3.0 版での遠端漏話、近端漏話および線路減衰量の考え方をを用いることで下図の様に表現できる。

図 2 . き線点等に設置する場合の漏話雑音の評価イメージ



(3) まとめ

図 1、図 2 から FEXT1 FEXT3 FEXT2 FEXT4
(注 1) (注 2)

NEXT1 = NEXT3 NEXT2 NEXT4

となるため、FEXT3 を主体に検討すれば良いと思われるが、審議頂きたい。

(注 1) 結合区間 m であるため、 m によっては FEXT1 FEXT3 があり得る。

(注 2) 結合区間 m であるため。

以上